

研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名 富山大学 医学部・薬学部
- ・所属ゼミ 富山大学 学術研究部医学系 医学教育学講座
- ・指導教員 高村昭輝
- ・代表学生 宮寺一穂
- ・参加学生 石田瑞都、小野絢音、寺尾樹、宮澤正咲

【研究題目】 カフェを通じた地域住民のさらなる SDH 向上と効果の継続について
～漢方カフェ Phase II～

1. 課題解決策の要約

廃幼稚園を利用した施設；せんだんの HILL で医療系学生が学生カフェを企画・運営に関わって展開した。対象地域は人口減少や高齢化が進む地域である。テーマの和漢薬は富山大学の特色であり、医療の中で学生にも一般の幅広い世代にも関心が高い。昨年度の Phase I では興味を持ちながらもカフェに来ない住民層の存在が明らかとなった。来場しない理由を分析し、今年度は対策を講じて新規と継続を目標に、学生と住民の対話機会の増加や和漢薬イベント主体のカフェ開催を異なる課題を持った別の地域や同様の課題を抱えた別の地域に広げた。質的・量的調査で学生・住民の意識変化や外出が健康に与えた影響などの効果検証と活動意義を研究し、このカフェを通して地域の活性化と学生の学びと成長の相乗効果を広げていくことで最終アウトカムとして地域住民の SDH の向上を狙った。

2. 調査研究の目的

毎月同じ場所での開催、県内各地の不定期開催を通して、学生主催カフェの継続が地域の活動性と学生の内面変化にどのような相互作用をもたらすかについて探る。

3. 調査研究の内容

昨年度の研究を受けての仮説

梅檀野地区は 75 歳以上が人口の 2 割を占める少子高齢化の顕著な地域である。幼稚園や商店も無くなり、地域の行事も減少してきた。このような環境では、高齢者の SDH（特に社会環境）は低下しようと考え、Phase I では薬膳オリジナルメニューや健康相談をきっかけに学生とお客様である地域住民、普段と異なる世代間の交流が生まれることをねらいとしたカフェを毎月一回開催してきた。地域イベントで行った聞き取り調査では漢方カフェを知っていると答えた 24 名のうち、半数以上が知っているが行ったことはないと解答し、このような層には、来るまでの心理的障壁があることが考えられた。一度来てもらえると雰囲気が分かり、他の住民や学生と顔見知りになることから心理的障壁が減少すると予想した。そのきっかけとして多くの人が集まる地域のイベントとのコラボにも力を入れ、また、漢方カフェ自身の知名度向上や他の地域での学生カフェのあり方を模索するために多くの人が集まる他地域での活動にも力を入れた。

スケジュール

- ・せんだんの HILL での開催

毎月第二日曜日を漢方カフェの日と設定

2024年4月～2025年1月。お盆休みで休業とした8月を除き計9回開催

せんだんのHILLでは7月は同じ富山大学医療系学生が主催した「ぬいぐるみ病院(子供向けの問診体験)」、11月は公民館祭り、12月はクリスマスマーケットと同時開催した。また、多くの人が集まる公民館祭りでは、アンケート調査を行った。

・県内他の各地域での開催

計5か所で開催(下記)

出張開催

- ・2024/6/9 アースデイとやま 2024(富山市)
- ・2024/7/14 第6回みんなの食堂(入善町)
- ・2024/8/25 南富山の夏祭り(富山市)
- ・2024/9/16 LINKPARK(射水市)
- ・2024/12/15 第8回みんなの食堂(黒部市)

出張開催では、地域・イベントごとの特徴を調べる目的でシール式のアンケートも行った。



宣伝方法

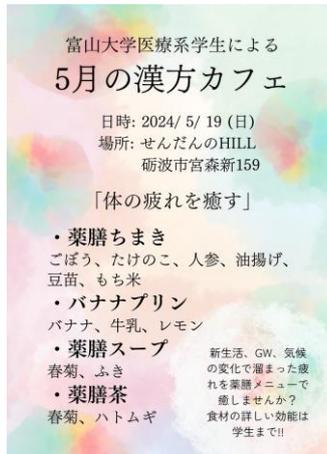
主に電子回覧板と SNS での宣伝を行った。電子回覧板は地域の8割程度の住民が登録しており、直接的・一斉に情報を伝えるのに効果的だと考えた。



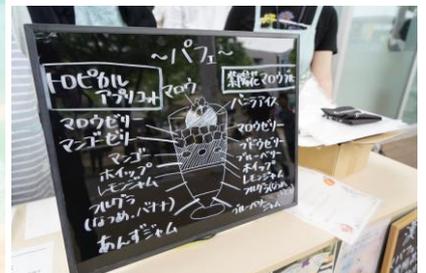
電子回覧板の様子。住民全員が閲覧可能な設定とし、チラシを添付して発信。



Instagram ストーリーによる宣伝の様子。出張開催の場合は数日前から宣伝を行った。



毎月のカフェでチラシを制作し、宣伝や当日のメニューを紹介。誰もが見やすい大きな文字を意識し、使用する食材を記載することでメニューの興味を引く工夫を実施。



当日は黒板を使い、大きくカフェ自体やメニューの説明。

4. 調査研究の成果

メニューの工夫点

・季節の食材や地域の食材を活かしたメニュー

梅檀野地区の農園 E&T ファームで育てられた農薬・化学肥料未使用のさつまいもペーストを使用したメニューとして準備した。また、春には筍、夏には梨、冬には大根など季節感のある食材を使用することにも意識した。食材だけでなく、ちまき、あじさいを模倣したデザート、かき氷、年末年始に余った餅を利用するメニューなど料理自体にも季節感を持たせることで1年を通して四季に応じた「食」を楽しめる工夫も施した。

・お客さんと一緒に作るメニュー

餃子の皮を用いたミニピザ(7月)、ジンジャーマンクッキー(12月)などお客さん参加型のメニューも用意した。これらのメニューは特に親子連れに人気で、真剣に集中して行う子供も、仲の良い子

と盛り上がりながら行う子供も見られた。



(上) あじさいを模倣したプリン(6月)
(下) 手作りのシロップを用いたかき氷
(8,9月)

ミニピザ作り(7月)

ジンジャーマンクッキー作り(12月)

地域のイベントとのコラボ

11月の公民館祭りとの同日開催では昨年同様開催した中で最も多い来客があった。隣の建物の公民館からの来客が多いことを予想し、持ち運べるメニューとテイクアウト容器を用意したが、普段以上の来客があった。また、12月のクリスマスマーケットとの同日開催では体を温める食材として生姜とシナモンの紹介をするチラシを用意した。イベントと同時開催することでせんだんのHILLのカフェスペースの近くで子供たちと学生が自然に遊びだす（繋がり形成）場面も頻繁に見られた。

出張開催の様子

計5回の出張開催の概要は以下の通りである。

1. アースデイとやま 2024（富山市五福キャンパス、6/9）

メニュー：パフェ2種、薬膳茶・ジンジャーエール

富山産・国産食材を使用。チラシ掲示で普段の活動の紹介をした。

2. 第6回 みんなの食堂（入善町、7/14）

メニュー：薬膳フルーツポンチ

白玉を魚や星型にし、見た目の楽しさを工夫。各テーブルにクイズを設置し漢方カフェのPRを実施。アースデイ来場者も見られたことで漢方カフェの認知度向上を実感した。

3. 南富山の夏祭り（8/25）

メニュー：抹茶かき氷、スパイス&フルーツかき氷

塩昆布トッピングや手作りシロップが好評。ブラックペッパーの辛さが子供向けでない課題あり。視認性向上のため看板設置を検討した。

4. LINKPARK（射水市、9/16）

メニュー：かき氷（南富山と同じ）

スパイスの調整で食べやすく改良。ブラックボードを活用し看板を設置。場所の要因もあり漢方カフェを認知度が高く、漢方や薬用植物園に関する質問があった。

5. 第8回 みんなの食堂（黒部市、12/15）

メニュー：スパイスココア、チャイ

工夫点：クリスマス仕様のドリンクを提供。同じイベントへの2回目の出店でスタッフからの認知度も向上した。

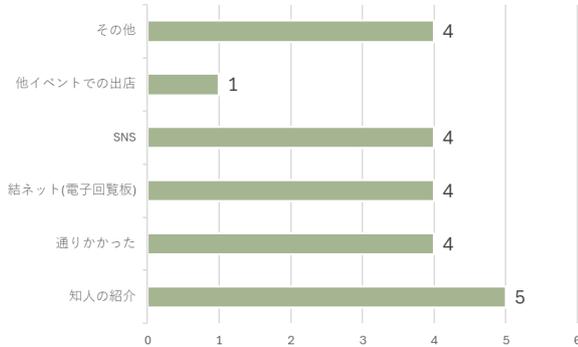
アンケート調査の結果

・公民館祭りとの同日開催(2024/11/9)

漢方カフェに来店していただいたお客さん 20 人を対象にアンケートを行った。

Q1. 漢方カフェをどのようにして知りましたか？

(複数回答可、単位：人)



Q2. 漢方カフェに何度行ったことがありますか？

(単位：人)



寄せられたコメント

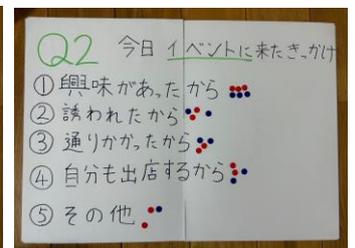
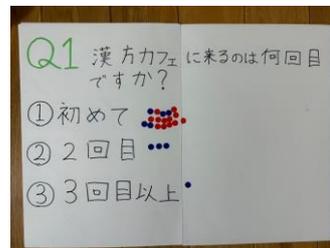
- ・一回や二回では変わらないと思うが、漢方に興味はある。季節の素材の中で漢方的な特徴があるものを知りたい。
- ・もともと興味がある。「便秘に効く」とか「冷えに効く」とかの料理があるといいと思う。
- ・ゆっくりできたのがよかった。人とお話しして楽しめた。
- ・漢方というと薬というイメージでしかとらえていなかったが食事の中に活かせるということが分かった。

出張開催時にに行ったアンケート調査の結果

提供までの時間に質問を書いた画用紙にシールを貼っても合うことで調査を行った。五福、射水では健康や漢方に対する意識調査をメインで調査したが、内容の見直しを行いカフェが与える影響を調べるため来たきっかけやリピート回数などの客層調査をねらいとして調査した。

質問	回答	五福		射水	
		男性	女性	男性	女性
Q. 健康にどれくらい興味がありますか？	1(ない)	2	0	0	0
	2	1	0	0	0
	3	2	1	0	0
	4	8	5	12	12
	5(ある)	42	1	5	5
Q. 漢方にどれくらい興味がありますか？	1(ない)	4	0	2	2
	2	3	1	5	5
	3	9	2	12	12
	4	15	2	2	2
	5(ある)	1	3	1	1
Q. 健康のために気をつけていることは？(複数回答)	食事	22	3	5	5
	運動	15	3	6	6
	睡眠	20	4	10	10
	入浴	8	0	1	1
	ストレス対策	15	0	4	4
	その他	4	0	1	1
Q. 健康の不安要因は？(複数回答)	食事	8	1	3	3
	運動	14	2	5	5
	睡眠	15	2	4	4
	入浴	3	0	0	0
	ストレス対策	19	3	6	6
	その他	1	0	0	0

質問	回答	入善		南富山		
		男性	女性	男性	女性	無回答
Q.漢方カフェに来るのは何回目ですか？	初めて	5	12	2	10	1
	2回目以上	3	0	0	0	0
	3回以上	1	0	0	0	0
Q.今日イベントに来たきっかけは？	興味があったから	3	3	1	6	0
	誘われたから	2	2	1	1	1
	通りがかったから	2	2	0	0	0
	自分も出店するから	2	2	0	1	0
	その他	1	2	0	2	0
Q.誰と来ましたか？	家族	4	5	1	5	0
	友人・知人	3	4	0	4	0
	一人で	2	3	1	1	1
	その他	0	0	0	0	0



調査結果の例

質問	回答	五福		入善		南富山			射水	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	無回答	男性	女性
Q.年代を教えてください	0~9歳	0	3	3	0	0	0	0	0	1
	10代	6	1	2	0	3	0	0	2	7
	20代	13	2	2	0	3	1	0	0	1
	30代	5	4	1	2	1	0	0	3	2
	40代	19	1	2	0	1	0	0	3	4
	50代	2	0	2	1	0	0	0	0	3
	60代	5	0	0	0	0	0	0	0	1
	70代	0	0	0	0	1	0	0	0	1

インタビュー調査による結果

カフェの与える影響、今までで印象に残った回、今後の可能性についてヒアリングを行うため半構造化インタビューを行った。

・60代男性

大学生が来てくれること自体嬉しく思う。梅檀野地域は人口減少などの問題が他に比べて早く進行している課題先行地域であるともいえる。漢方カフェはせんだんのHILLで行われているカフェの中でも看板的な存在となってきている。梅檀野地域での認知度に関しては敬老会で宣伝したことなどもあるため中高年の方が認知度は高そう。

・30代女性

自分たち主催のイベントではどうしても子育て世代の人中心になりやすい。大学生が来ることで他の世代の人が興味を持ってくれ、心を開いてくれる。カフェは幅広い世代を繋ぐ影響をもたらしていると思う。また、ぬいぐるみ病院と一緒に開催したとき、大学生がいろんなところで子供たちと遊んでくれたのが助かった。その間にママたちはカフェでゆっくり話したりできる。もっと多くの人にこのカフェを知ってもらうためには、多くの人が集まる公民館祭りの時に試食を出す、建物の外や玄関で売ってみるのもよいのではないかな。やはり、建物に入るハードルが高い人が多いと感じる。せんだんのHILLの公式Instagramでももっと情報を共有していきたい。

・50代男性

漢方カフェを知ったきっかけは漢方カフェを始めた学生から他の機会に漢方カフェのことを伝えられたこと。月に一回カフェに来ることは精神的にも身体的にも健康でなくてはならないため、足を運ぶこと自体が励みになっている。また、学生が頑張っているのが良い影響を与えていると感じる。学生が自分の娘、息子と同年代のため重ね合わせているところもある。カフェをやっている学生は、活発に行動している若者の一つのロールモデルとしていろんな世代に良い影響を与えていると思う。子供達に親以外の生き方、いろんな背中を見せてあげられたらと感じる。今後は漢方をキーワードに様々な角度から体に対するアプローチを広めていくことを期待している。

・学生(活動後の振り返りより)

当日は忙しくなるタイミングができるぐらいお客さんが来てくれて嬉しかった。このように地域に出て出店してみると、自分たちが普段いるコミュニティがいかに狭いものなのかを思い知らされた。カフェにはどのような点に漢方が生かされているのか、どんな効果があるのか、漢方と薬膳の違いについて聞いていた方もいた。想像以上に質問をしてくださったお客さんが多く、それに対応するためには知識とコミュニケーション能力が必要だと感じた。農業に関わる人や、地域の活動に興味を持つ方々と出会えた。普段から漢方に関わりを持っている方もいた。(6/9 アースデイ、医学部2年)

・初めて来てくださる方が多く、梅檀野の活動に興味を持ってくださった方もいて良かった。塩昆布が好評で嬉しかった。調理・接客担当は固定ではなくみんなで回せて行ける方が、それぞれお客さんとお話できるためみんなで回していけたらと思う。(8/25 夏祭り、医学部1年)

5. 調査研究に基づく提言

【考察】

学生カフェは、インタビュー調査でもあった通り学生が主催であることによる話題性があることが強みだと考えられる。実際の場面でも「大学で今何をしているのか」「大学でどのくらい漢方の勉強をするのか」などこのテーマをきっかけにした会話が見られ、特に大学生の世代が少ない地域では興味を持ってくれた人が多いように感じた。

漢方をテーマにすることでもともと関心があるお客さんの興味を引くことが出来た。実際に日常生活で利用している話など学校生活のみでは知れないことも聞いたのが印象的であった。

広報方法については電子回覧板と SNS の利用に力を入れた。インタビューにあったように建物自体に入ったことが無い地域の人に向け、建物の外やせんだんの HILL 隣の公民館で直接アピールすることも効果的だと考えられる。また、実際には漢方だから、健康について興味があるから来るというよりも、たまたま立ち寄ってカフェがあったから入ったという客層も多かったため、普段より多くの人が集まるイベントが開催される日に同日実施し、多くの人に「何となく」立ち寄ってもらうこともリピーターの獲得につながるのだと感じた。

今回の Phase では、SDH(健康の社会的決定要因)が低下しうる要因として人口減少・高齢化地域の多世代交流機会の減少を挙げ、学生主催の交流の場づくりによる多世代交流・外出機会の増加を図った。カフェが中心となった交流を仮定していたが、実際にはカフェが地域に既存の交流の輪に溶け込み少しずつ広がっていくイメージに近いことが分かった。

今後も地域主催のイベントとコラボすることで多方面へ交流の輪を広げ、将来的には学生カフェ主催のイベントも開催したいと考えている。これと同時に学生と地域住民との相互作用を目標としていたが、学生からの意見ではお客さんとの会話を楽しめたものの、カフェの運営に追われて深くかわりを持ってなかった様子も読み取れた。交流を重視する企画にとってこの点は課題であり、運営のマニュアル化などの効率化などが求められる。また他の地域で活動することで新たなつながりが生まれた。その日限りの活動では地域の人との関係性をその場で構築する必要がある分、新たな視点を得やすいが事前準備や情報収集の時間が普段よりも必要であった。出張開催のメリットとしては新しいアイデアや刺激を受けられることであるため、何か所か固定の拠点を設定することも効果的であると考えられる。

【提言】

このカフェの特徴である「漢方×学生」のテーマを効果的な「広報活動」と「継続的」に実施することによって、活動性の低い高齢者が多い地域でより多くの人との「繋がり」促進ができると考えられる。

6. 課題解決策の自己評価

質的調査・量的調査の両面から学生主催カフェの可能性について探った。目標であった新規層とリピーターの獲得については開催場所を変えたこと、梅檀野地区では「毎月第2日曜日」と固定して開催したことによる成果を大きく感じた。

定期的・継続的な活動の重要性を認識したので今後も課題点を改善しながらこの活動を継続していく。また、次世代への引き継ぎをすすめることで学生と地域のつながりをさらに深めていきたい。

謝辞

本報告の作成にあたり、終始適切な助言を賜り、また丁寧に指導して下さった高村昭輝先生に感謝します。本研究の趣旨を理解し快く協力して頂いた、梅檀野地区の皆様、およびアンケートやインタビューに協力して下さった皆様に心から感謝します。そして、漢方カフェ学生運営メンバーには常に刺激を頂き、様々な場面で支えられました。ありがとうございました。